

10
vol.176

広報 縄文村だより vol.176 (10月号)

Jomon Times



令和2年10月1日
●編集・発行●
奥松島縄文村歴史資料館
東松島市宮戸字里81-18
TEL 88-3927 FAX 88-3928



8/9-11, 13-15

おいでよ、縄文村へ!

毎年恒例の夏休み企画「おいでよ、縄文村へ!」。今年は新型コロナウイルス拡大防止のため、規模を縮小して開催しました。

今年のイチオシは「縄文の丸木舟作り」。地元ニュースや情報番組でご紹介いただいたこともあり、丸木舟目当てのお客様もちらほら。炎天下の中、期間中 80 名が挑戦しました。

今年は、日替わりメニューから定番の勾玉・火おこしと、いくつも体験していくご家族が多く、つかの間のお休みをめいっいっぱい楽しんでいる様子でした。

3年後を目指して!丸木舟作り

みじかい夏休み、縄文村で満喫!!!

7月に作った土器を野焼きする「縄文教室」の2回目を、8月16日に開催しました。

今年の粘土はデリケートで割れやすいので、細心の注意を払いながら、じっくりじっくりと焼き上げることに。そっと薪を並べたら、野焼きはスタッフと常連さんに任せ、参加者の多くは縄文体験を楽しみます。

勾玉・コハクのアクセサリーのほか、縄文人にならって、史跡公園に生える「カラムシ」という植物から糸をとったりと、

思い思いに縄文時代を体験しました。

午後、ようやく土器が完成!ハラハラしていた皆さんですがほとんど割れることもなく一安心。素敵に焼けた土器を嬉しそうに手にしていました。



今年は慎重に...野焼き

カラムシの糸作り

8/16

縄文教室 ②野焼き

テーマ展 さとはまの縄文土器 ~10月18日(日)まで

現在、2階展示室でテーマ展「さとはまの縄文土器」を開催しています。東日本大震災で被災し、修復した土器 37 点を展示。4500 年前の縄文時代中期から 3300 年前の晩期にかけて作られた、深鉢や浅鉢、注口土器などです。特徴的な渦巻き模様や曲線の美しさをぜひご覧ください。

今回展示している土器を収録した図録も、ご希望の方に配布しています。



夜のミュージアムへようこそ。

今年のナイトミュージアムのテーマは「お月見!」夜の博物館ツアーのほか、星を見る会も行います。野外では地元有志による「フード(風土)パバー!」を開店。地物を使った料理を提供します。

お月見ナイトミュージアム
×フード(風土)パバー!

2020年10月3日(土)
17:00~20:00 (予約不要・参加無料)

星を見る会 18:00~20:00

うずまき星雲や星団を望遠鏡で観察します。写真データをお渡しします。保存する SD カードをご持参ください!

夜の博物館ツアー

17:00/18:00/19:00 出発

ライトを手に、照明を落とした展示室を探検!

フード(風土)パバー!

17:00~19:30(ラストオーダー)

地物を使った料理を提供します。状況により内容変更があります。

もっと知りタイ! 地域おこし協力隊 (第31回)

■問 地域おこし協力隊事務局 復興政策課基地対策・地域振興係 ☎内線1234・1264



農業で東松島を盛り上げる



農業

さとうあきら
佐藤明さん(39)

仙台市太白区出身で、前職は業務用の食品卸売会社で11年ほど営業や配達などに携わって来ました。農業について考えるようになったのは、海外を長期に旅した経験からです。日本では、農業など一次産業分野に若い世代が魅力を感じていない現状がありますが、食べることは人間が生きていく上で一番重要なこと。今後後継者が減少し、これまで蓄積してきたノウハウが途切れてしまうのはまずいと考えるようになり、「自分も携わりたい」という気持ちが高まりました。

そうした中、職場のあった板木県宇都宮市で無農薬農家さんの手伝いをしたことで、本格的に農業に携わろうと決心しました。農業の研修を終え、「将来的に地元宮城県で農業をやりたい」と考えていたところ、都内で移住や地域おこし協力隊を紹介するブースがあり、その際に東松島市の先輩隊員と出会いました。

現在は市内2農業法人で働いています。それぞれが特色ある米や野菜を生産しており、農業経営についても学んでいるところです。

最終的には、自分の畑などを持ち、自給自足できるようにできればと考えています。現在は新型コロナウイルス禍なので、地域行事が自粛傾向にありますが、再開されるようになれば、積極的に参加し、地域との交流を図りたいです。